

男女共同参画推進シンポジウム



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE
日本学術振興会

参加無料
先着順

アカデミア × ジェンダー × グローバル

日本と世界のアカデミアにおけるジェンダーの現在地

2025
2.27 木
14:30-16:35
ONLINE

令和6年度・JSPS男女共同参画シンポジウム 参加者アンケート集計結果

独立行政法人 日本学術振興会(JSPS) 経営企画・広報課
令和7年5月

シンポジウムの概要

アカデミア×ジェンダー×グローバルをテーマに、2月末に開催

アカデミア×ジェンダー×グローバル
—日本と世界のアカデミアにおけるジェンダーの現在地—

【開催概要】

令和7(2025)年2月27日(木)14:30～16:35【日本時間】
オンライン開催(Zoomミーティング)
日本語・英語(同時通訳あり)

【登壇者】

伊藤 公雄(基調講演)
京都大学・大阪大学名誉教授、(独)国立女性教育会館監事

Claudia Jesus-Rydin(欧州の最新動向紹介)
欧州研究評議会(ERC)ERCEA Gender and Diversity Activity Group
コーディネーター

中野 亮平(パネルディスカッションモデレーター)
北海道大学大学院理学研究院教授、JSPS男女共同参画推進アドバイザー

甲斐 歳恵(パネリスト)
大阪大学生命機能研究科教授、
グローバルイニシアチブ機構学生交流部門長(総長補佐)

参加無料
先着順

独立行政法人日本学術振興会
男女共同参画推進
シンポジウム
SYMPOSIUM ON PROMOTING GENDER EQUALITY

アカデミア × ジェンダー × グローバル

日本と世界のアカデミアにおけるジェンダーの現在地

第1部：基調講演 (40分 Q&A含む)
「誰一人取り残さない学術に向けて
～ジェンダーとインターセクショナリティの視点から～」
講演者：伊藤公雄 (京都大学・大阪大学名誉教授
国立女性教育会館監事)

第2部：欧州の最新動向について (20分 Q&A含む)
「Inclusive Excellence in Europe」
講演者：Claudia Jesus-Rydin (欧州研究評議会 (ERC)
ERCEA Gender and Diversity Activity Group
コーディネーター)

第3部：パネルディスカッション
～研究に重要な男女共同参画について～ (40分 Q&A含む)
モデレーター：
中野亮平 (北海道大学大学院理学研究院教授
JSPS 男女共同参画推進アドバイザー)

パネリスト：
伊藤公雄
Claudia Jesus-Rydin
甲斐歳恵 (大阪大学生命機能研究科教授
グローバルイニシアチブ機構学生交流部門長 (総長補佐))

伊藤 公雄 Claudia Jesus-Rydin 中野 亮平 甲斐 歳恵

日本時間
2025. 2.27 THU 14:30～16:35 WEB開催
日英同時通訳

申込方法
JSPS 男女共同参画
二次元コードまたは、WEBよりお申し込みください。
申込み完了後、事務局よりメールにてご案内します。
お問い合わせ：経営企画部 経営企画・広報課 gender@jps.go.jp

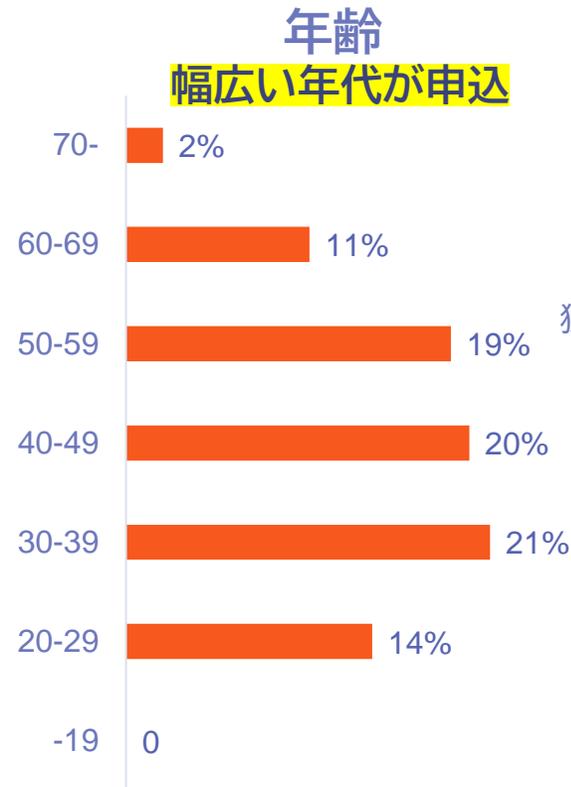
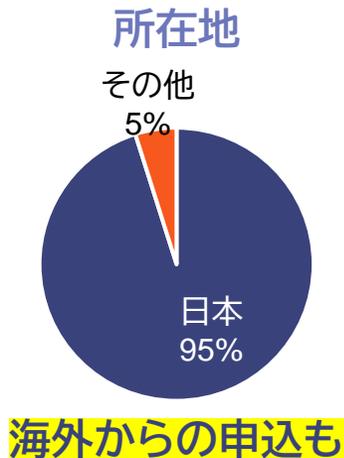
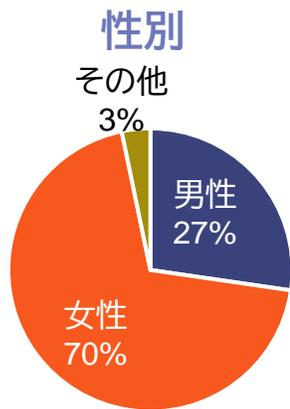
日本学術振興会

参加者情報(申込者)

前年度(424名)を大きく上回る**635名**の申込!
海外からの申込も!

【申込数】 **635名**(総数)

【申込者属性】



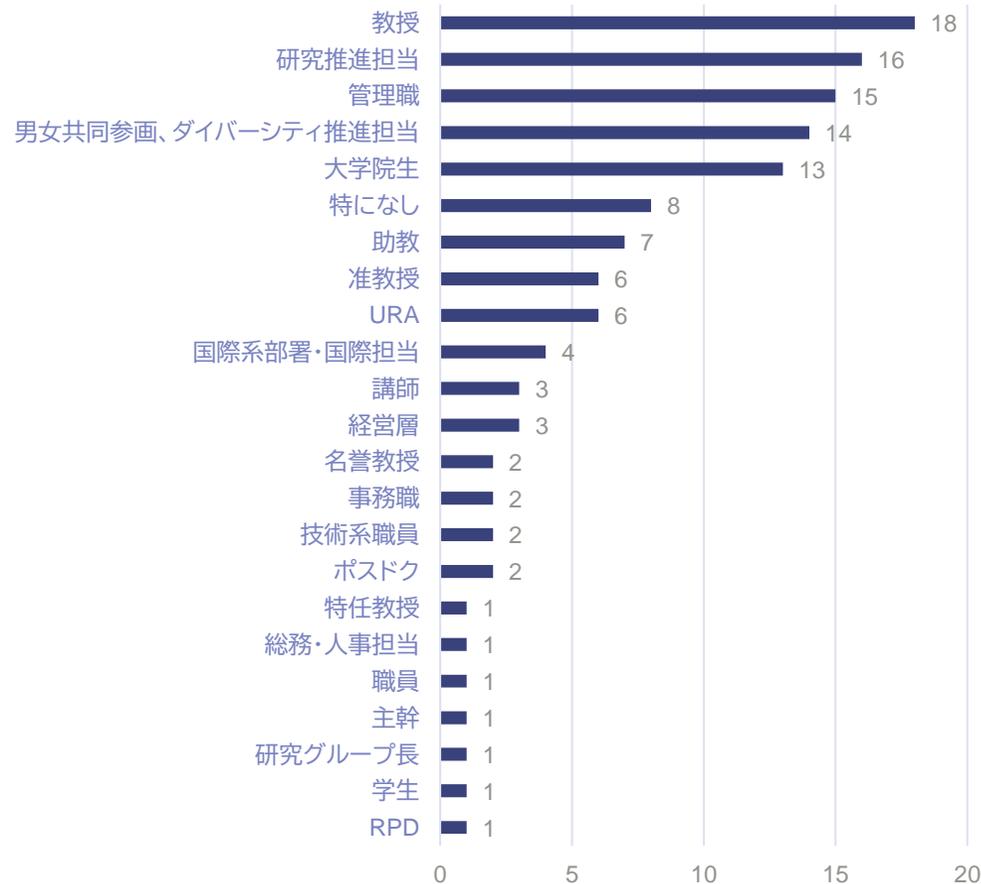
所属機関(複数選択可)



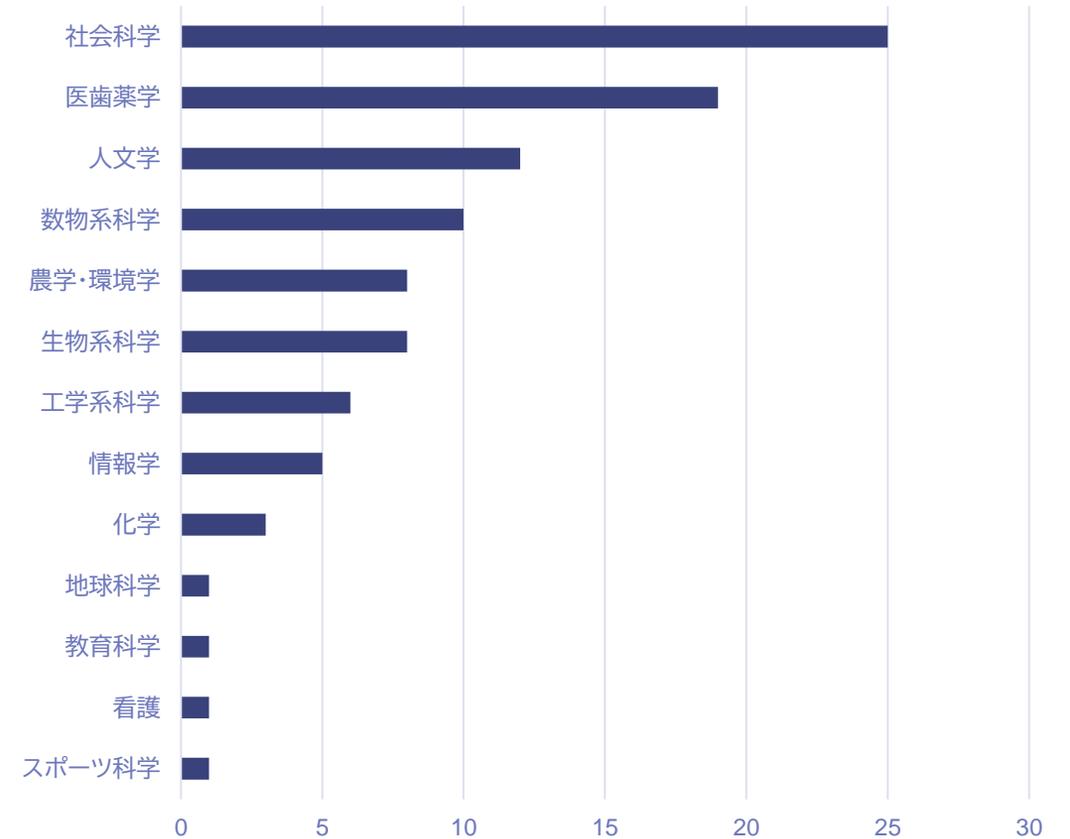
当日参加者の役職・研究分野

大学の**管理層**と**学生**の双方に関心を持たれており、研究者の専門分野も多岐に渡る

参加者の役職(*複数回答を含む)



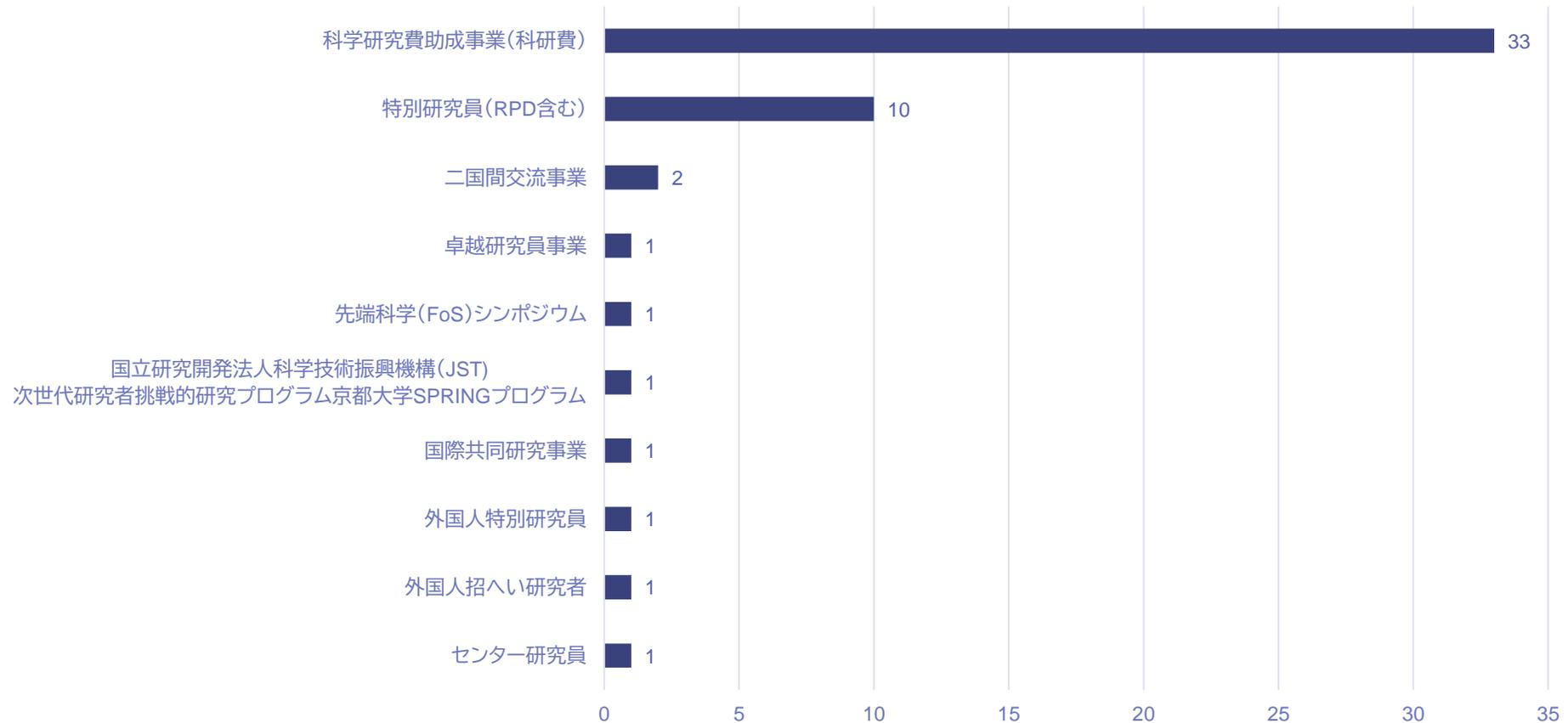
参加した研究者の専門分野
(*任意回答、*複数回答を含む)



当日参加者のJSPS採択中の事業

採択中のJSPS事業については、科研費、次いで特別研究員が多い

JSPSの事業に採択中である参加者(*任意回答・複数回答を含む)



当日参加者数&アンケート結果

430名(前年度385名)の参加者

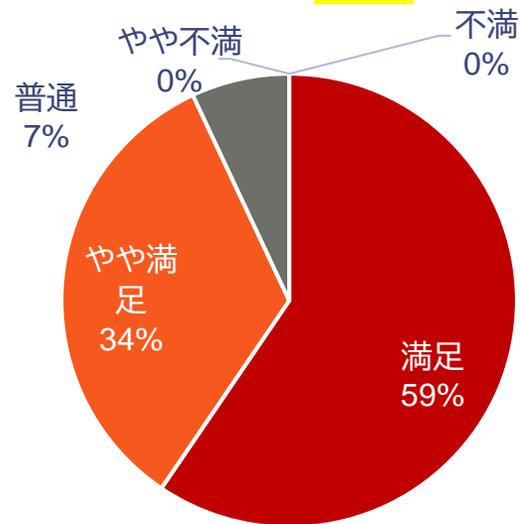
いずれの講演に対しても8割以上が好意的回答

【当日参加者数(累計)】

430名

【アンケート結果】

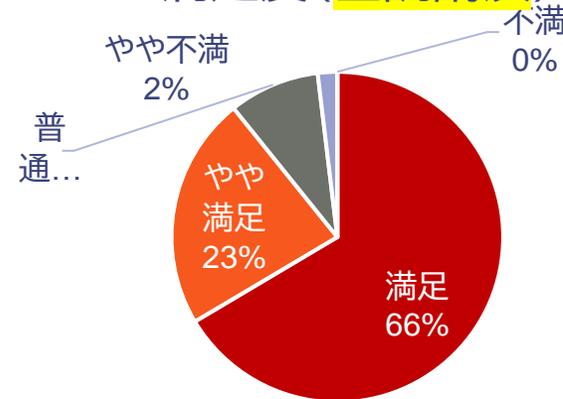
満足度(全体)



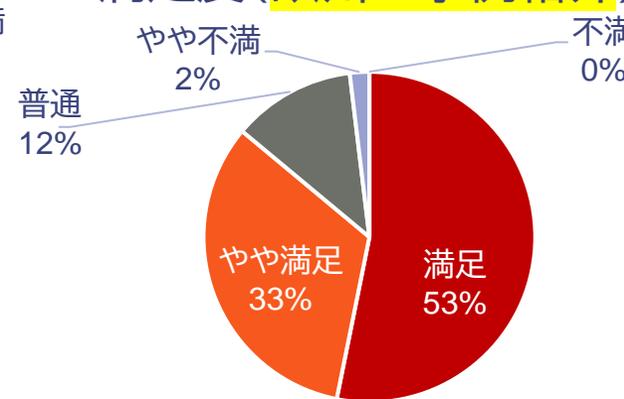
どのプログラムも内容が充実していて勉強になった。

英語、日本語の二か国語開催であることでより多角的な視野から考察を深めることができた。

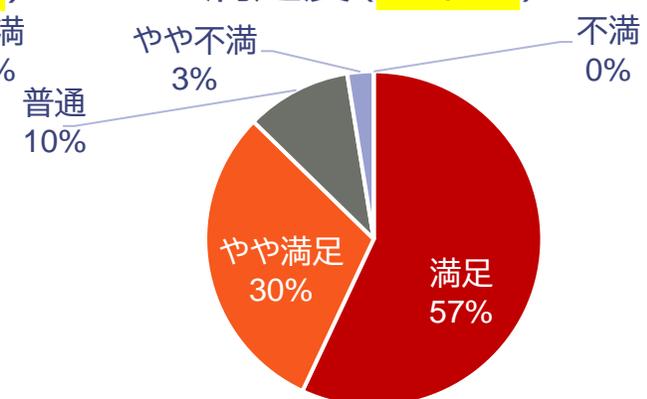
満足度(基調講演)



満足度(欧州の事例紹介)



満足度(パネル)



アンケート結果(満足度の理由)

チャット機能等、オンライン開催は好評

ジェンダーの歴史から、欧州の先進事例まで多彩な話題をパネルディスカッションで総括

全体

第1部・基調講演

第2部・欧州の現状と取組紹介

第3部・パネルディスカッション

英語、日本語の二か国語開催であることでより多角的な視野から考察を深めることができた。また、非対面でありながら、チャット欄のQ&Aにも都度触れながら進めることで、オーディエンス参加型のイベントになっていたように感じた。

gendered innovation, 無知学など、これまで欠けていた視点に気づかされたこと。
gendered innovationのために何をすべきかが明確に示されたこと。

EUでの具体的な取組、レビュアーの男女比等、申請から採択までのあらゆる段階においてジェンダーの視点を組み込んでいること、継続的な改革の一端を伺うことができた。

ディスカッションの内容に加え、チャットでの参加者のコメントから、日本の状況が理解できたため。

外国人研究者の方の参加が多く、質問欄も外国人研究者の方からの質問が多かったのですが、そこでの議論なども拝読させて頂き「外国人研究者」かつ「女性」というインターセクショナルリティの方々に対して、フォーローが足りていない我が国の状況を改めて認識することができました。

ジェンダーの歴史的経緯から現代の課題まで、丁寧に解説してくださり、分かりやすかった。特に質疑応答では、政治的な選択にまで明快に回答され、膝を打つ思いがした。

アファーマティブアクションやクォータ制として実施している訳ではなく、評価は研究の卓越性を主体とし、組織内の方針として行っているというスタンスや強いリーダーシップが必要という話も非常に興味深い。

中野先生や甲斐先生のご経験を踏まえたお考えや伊藤先生、Jesus-Rydin氏のコメントは、日本の学術界における本当の意味でのジェンダー平等を推進するための現状把握や改善に向けて、非常に重要なものだと感じました。

様々な立場の方から現状や考察のヒントを得られた。プレゼン資料の事前配布もありがたい。

数の適正化、制度の適正化、知識の適正化 これまでで一番納得感のある説明でした

日本ではまだ浸透していない取り組みや最新の動向について、知見を深めることができた。

パネリスト一人一人の、経歴、バックグラウンドが異なり、複数の視点からの意見を伺うことができたのは、大変満足できました。パネリストの選出も大変良かったと思います。

アンケート結果(要望・改善を望む意見)

全体を通して、より具体的な解決策を求める声が寄せられた

全体

第1部・基調講演

第2部・欧州の現状と取組紹介

第3部・パネルディスカッション

ヨーロッパのfunding agencyの取り組みについて知ることができたのは収穫。一方で、何が問題解決に必要かといった本質的議論の深まりが欠けていた印象である。

より具体的な話が聞きたかったので時間が足りないように感じられた。

私自身が英語のリスニングに自信がないため、理解できているかの不安があった。AIの同時通訳もしくは、日本語のアブストラクトやパワーポイントの資料があれば、よりありがたかった。(※日本語の資料はウェブ上に掲載し周知していたが伝わっていない方がいた)

ディスカッションは翻訳ツール(*字幕機能のことと思われる)を利用したかったですが、英語が日本語認識されてしまうかたちだったため、少し残念でした。

日本、ヨーロッパの最新の状況と相違点について、理解できたのは良かった。質問にもあったとおり、日本における具体策について、議論が深まるとなお、良かったと思う。

内容として大変勉強になったが、より具体的な方法などが知りたかった

自身の英語力が不足しているため

意識改革の話ばかりで、具体的な制度や打開策についての議論が少なかった。欧州の現状と取組紹介の講演を活かして、日本のシステムとの比較や日本で取り入れる場合の課題などをしっかり議論して欲しかった。

日本の研究業界における男女共同参画の課題を再認識したものの、画期的な解決策はまだ見出せていないため。

ジェンダード・イノベーションについて、更に具体的な事例について紹介して頂ければなお良かったです。

内容そのものは「満足」です。もう少し、長く講演を聴きたかった。

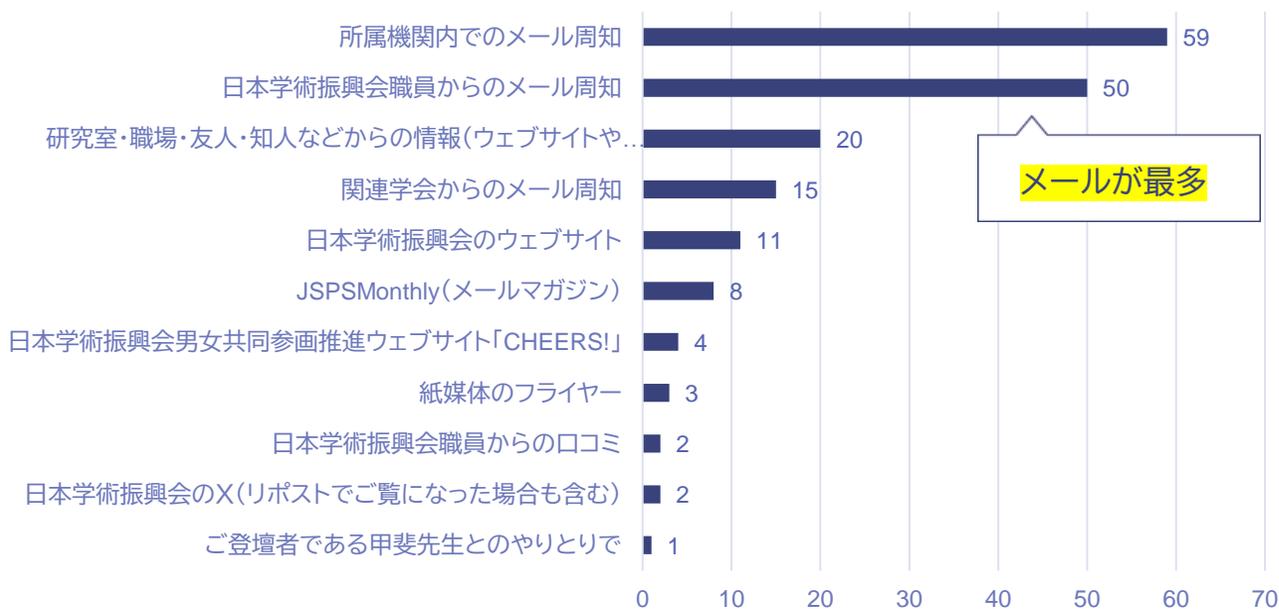
人文学の研究者もメンバーにいて欲しかった。理系と文系でもまた、意見や現場の空気などが異なっている気がします。

アンケート結果(知ったきっかけ・参加理由)

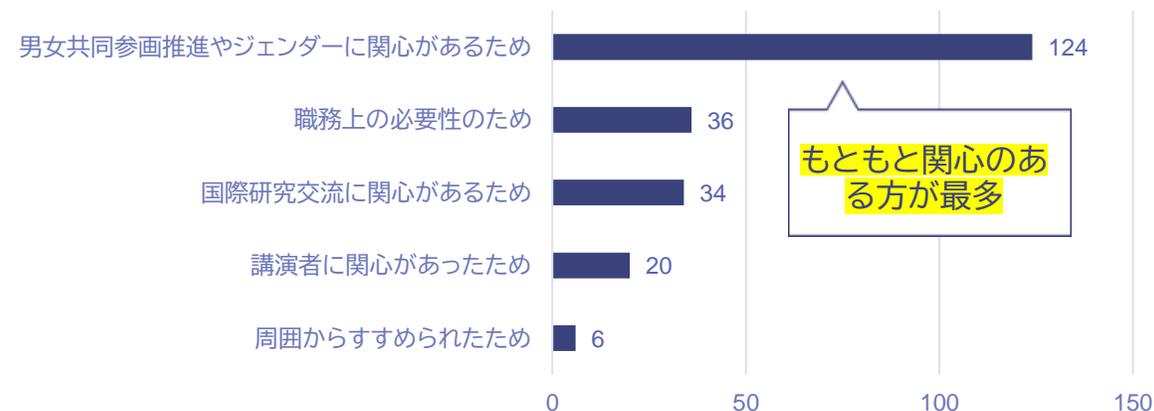
シンポジウムを知ったきっかけは**メールが最多**。

もともと関心のある層からの参加が多い⇒関心がない人たちへ届く方法も検討が必要。

シンポジウムをどこでお知りになりましたか？
(*任意回答、含む複数回答)



シンポジウムに参加した理由
(*任意回答、含む複数回答)

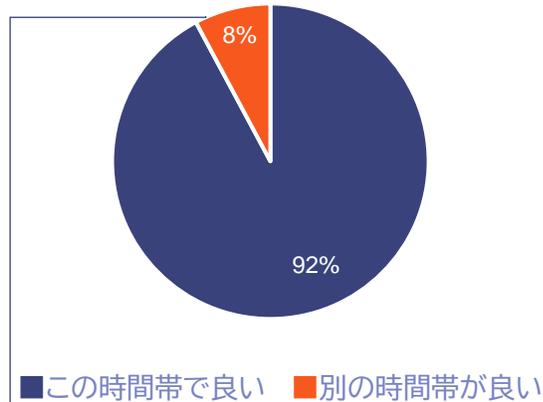


もともと関心のある方が最多

アンケート結果(開催時期等への希望)

開催時期、時間帯、所要時間については**ちょうど良い**の声が最多数

開催時期について



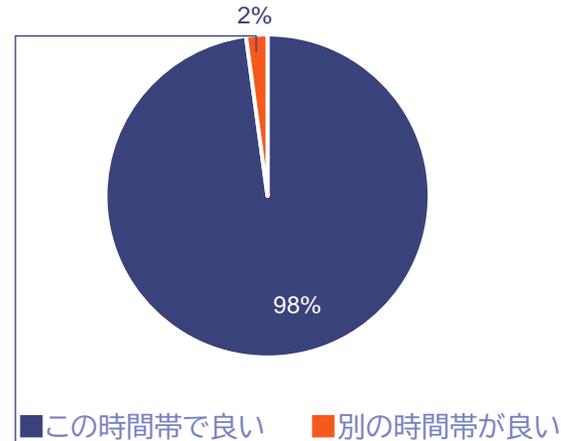
夏頃
業務が比較的閑散となる、夏から秋ごろを希望いたします。

12月
12月など。2月、3月はダイバーシティに関するシンポジウムがかなり多い時期なので、もう少し時期がずれるとよい

12月～1月
研究者の先生方は、特に2月はお忙しいように思いますので、2月以外の開催を希望いたします。

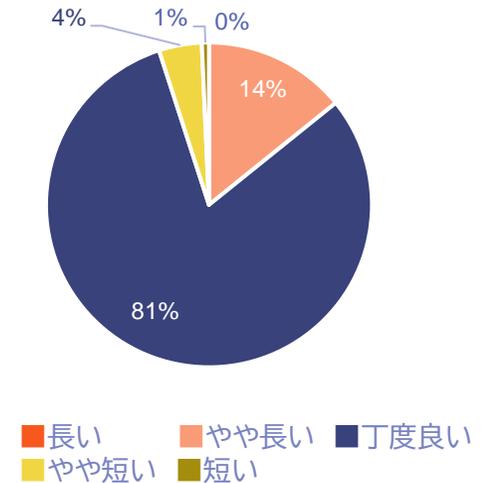
入試業務で多忙な1-3月以外の月
2～4月以外
年度末だけはやめてほしい。

時間帯について



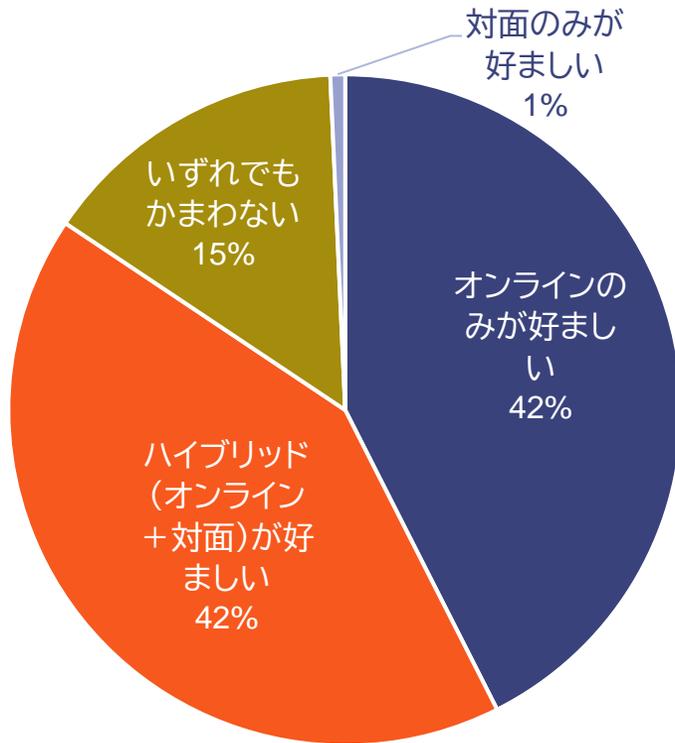
17時半以降
17時半以降
もう少し早めの時間帯

所要時間について



アンケート結果(開催形式への希望)

開催形式についてはハイブリット開催を望む声も



オンラインのみが好ましい理由	ハイブリッドが好ましい理由
今回のオンライン開催でも質問が多く出ていたので、オンラインでも問題ないのではないかと思います。	特にこだわりがあるわけではないのですが、対面の方が、パネルディスカッションの際の質問など、もう少し具体的/現実的なお話がしやすいかとも思いました。
地域間で機会の不平等が生じないから	オンラインは利便性に優れ、対面は人間関係の構築に優れ、双方に利点があるため。
時間の確保がしやすい	ハイブリット開催だと、参加者の選択肢が増えるため(講演者に直接質問をしたりネットワーキングしたい方は対面で参加できるし、遠方の方はオンラインで視聴できるため)
聞きやすいし、資料が見やすい。	対面もあった方が、質疑応答は活発になりやすいかと思いました。 オンラインのみであるならば、事前に聞きたいことなどを送れる質問BOX的なものがあるとありがたいです。
地方都市に住んでいるので、オンラインだと参加しやすいし資料配布も、会場だけしか配られないということが起こりにくいので。 参加のハードルが下がるので、オンラインの方がいいかなと思います。 できるだけ沢山の人の見てほしい。さらに参加者には私のような子育て中の人も多いと思うので、オンラインが望ましいと考えます。ハイブリットどうしても対面開催の人の方が参加しやすくなってしまおうと思います。	

アンケート結果(今後のシンポジウムのテーマ等の希望)

シンポジウムで登壇して欲しい講演者、取り扱って欲しいテーマや企画

事例紹介

政策に関わる人の講演(科学技術政策の動向)、海外で活躍する研究者の講演(日本の研究環境の課題、とくにシステム面)など

生命科学における働き方改革とは? 研究環境における欧州、諸外国との違い、成果と働き方改革の両立の可能性

妊娠出産とキャリア形成に関してや、海外での妊娠出産と研究の両立などの実体験を聞けたらありがたいです。

日本の学術機関で男女共同参画や多様性を促進する画期的な取り組みを行っている事例を紹介して欲しい

フランスやイタリア、またアジア系で男女共同参画が近年進んだ例、また日本ではなかなか男女共同参画が進まない理由等について、(シンポジウムとしては難しいかもしれませんが、レクチャーシリーズなどがあれば)伺いたいと思いました。

女性リーダ・研究者の育成

女性リーダーの育成、企業や海外での先進的な取組

情報学・工学、数物理で女性研究者・技術者・管理職が少ない理由

アカハラ

アカデミックハラスメントの現状と解決に向けての道筋を示す企画

その他

意見が対立するような登壇者をパネリストにしてほしい

研究現場における男女共同参画を推進する必要性(アンバランスの是正等ではなく、ポジティブな意味で)

男女が上手に協働するためのヒントが詰まった研究をしている方の講演を聴きたいです。

アンケート結果(その他のご意見・ご感想)

満足のご意見

一つの専門のみの学会と異なり、様々な分野の一流の研究者の話を聴ける場というのはなかなかないので、大変勉強になった。今後もこうした機会があればどんどん参加してみたいと思った。

企画いただきありがとうございました。通訳の配置や資料の日英版提供など、とてもよかったです。今後ともよろしくお願いします。

アメリカの現状に関心が傾いておりましたが、今回のシンポジウムでヨーロッパの着実なDEI推進についての情報を拝聴できて、とても有意義なシンポジウムでした。

日程が合わず参加できなかった同僚もおり、アーカイブ配信は大変ありがたいです。

それぞれの先生方のお話は大変有意義でしたが、特に甲斐歳恵先生のご意見は、現場レベルでの率直な見解であり、ほとんどの大学教員の意見を代表するものだと感じました。私も大いに共感し、現状を少しでも改善できるよう努力を続けたいと強く励まされました。

要望

質疑応答の時間をもう少し長く設定していただけるともっと良かったと思います。

パネルディスカッションはもっと長くてもいいと思います

不満のご意見

再度聞き直そうと考えておりますが、一部講演が英語でしたので、きちんと理解ができているのか不安です。一般向けシンポジウムでもあり、同時通訳(人でもAI字幕でもよいのですが)があるとより分かり易いのかとも思いました。

私の不慣れなためだったんだと思いますが、同時通訳が聞けなくて残念でした。シンポジウムはいいものでした。

日本でなぜ女性研究者が増えないのか、という問題は、制度を整えれば解決する問題ではないことは、この20数年間の取り組みで明らか。社会の通念(特に女性は理工系に向かないなどの思い込み)を変えるにはどうしたらよいか、という議論がほしい。

一部の方から、同時通訳が聞こえなかった、字幕が欲しいとの要望があり

*同時通訳や、字幕機能(Zoomによる自動字幕)について、事前の案内資料でも当日の司会からの案内でも説明はしていたが気がつかれていない方が一定数いた。次回はもっと強調するようにしたい。